

# 2023 年度 第 19 回 全道シニア 8 人制サッカーオープン大会

## 【 開 催 要 項 】

2023 年 3 月 30 日に赤字を修正

- |    |           |   |
|----|-----------|---|
| 1  | 主 旨       | 北海道シニア年代の普及策の一環として、そしてシーズン初めの足慣らしとして 8 人制サッカーを行い、既存のチームはもちろんのこと、フットサルのように気軽に参加できる 8 人制を通して、シニア世代を発掘することを目的とする。  |
| 2  | 名 称       | 2023 年度 第 19 回 全道シニア 8 人制サッカーオープン大会   |
| 3  | 主 催       | 公益財団法人北海道サッカー協会   |
| 4  | 主 管       | 北海道シニアサッカー連盟、一般社団法人札幌地区サッカー協会   |
| 5  | 協 力       | 公益財団法人北海道サッカー協会 女子委員会   |
| 6  | 期 日       | 2023 年 5 月 4 日(木祝)・5 日(金祝)  |
| 7  | 会 場       | 札幌市東雁来公園サッカー場(東・西)  |
| 8  | 参 加 資 格   | (1) 本年度(公財)日本サッカー協会登録選手によって構成されたシニア種登録チーム。女子は種別に登録しているチーム。また、シニアの大会を体験したい人のために 1 種登録の参加を認める。シニア種との混合も可。但し、チーム名は主たる選手の(公財)日本サッカー協会登録名とする。1 種だけでの参加も認める。<br>(2) 本年度、北海道シニアサッカー連盟に加盟しているチーム。ただし、女子部門及び 1 種は除く。<br>(3) 40 部門については、1984 年(昭和 59 年 4 月 1 日)までに生まれた選手によって構成されたチーム。<br>(4) 50 部門については、1974 年(昭和 49 年 4 月 1 日)までに生まれた選手によって構成されたチーム。<br>(5) 60 部門については、1964 年(昭和 39 年 4 月 1 日)までに生まれた選手によって構成されたチーム。<br>(6) 70 部門については、1954 年(昭和 29 年 4 月 1 日)までに生まれた選手によって構成されたチーム。<br>(7) 女子部門については、1989 年(平成元年 4 月 1 日)までに生まれた選手によって構成されたチーム。<br>(8) 各部門とも混成によるチーム参加を認める。チーム名については略称名を認めるが、申込書には協会登録及び連盟登録チーム名を記載すること。<br>(9) 全ての部門及び部門間の重複登録を認めない。<br>ただし、70 部門の JFA 登録に関する緩和策として、70 部門と 60 部門に限り、同部門間の重複登録は認める。 |
| 9  | 参 加 チーム 数 | 会場数に限りがあることから、予定数を超えた場合はシニア登録チームを優先とし抽選とする。   |
| 10 | 競 技 規 則   | (1) 「8 人制サッカー競技規則」に準じて、「シニア種 8 人制サッカー競技規則」で実施する。<br>(2) 競技フィールド(グラウンド状況により、変更する場合がある) <ul style="list-style-type: none"><li>・ ピッチの大きさ:縦 60~70m×横 40~50m(68m×50mを基準)</li><li>・ ペナルティーエリアの縦:12m</li><li>・ ペナルティーマーク:8m(但し、正規のゴールの場合は 11mとする)</li><li>・ ペナルティーアークの半径:7m</li><li>・ センターサークルの半径:7m</li><li>・ コーナーアークの半径:1m</li><li>・ ゴールの大きさ:少年用ゴール。但し、会場により正規ゴールを使用する場合がある。</li></ul>   |

- ・ 交代ゾーンはハーフラインより左右 3mずつの 6mとする。
  - (3) ボールは 40 部門普通 5 号球。60・女子部門・50 部門は軽量 5 号球 (400g) 70 部門は軽量 5 号球 (380g)を使用する。
  - (4) 競技者の数
    - ・8人(うち1名をゴールキーパー)とし、6人未満となった場合は試合を不成立とする。
    - ・交代要員の数:17名以内
    - ・交代を行うことができる数:再交代を適用する。  
(一度退いた競技者も再び出場でき、何回でも交代可能とする)
    - ・役員の数:5名以内
  - (5) 審判員は1人制とするが、第4審判員及び補助審判員を各1名置くこととする。
  - (6) その他は、本年度(公財)日本サッカー協会制定の「サッカー競技規則」による。
- 11 競技方法
- (1) 基本的には各部門ともリーグ戦方式とし、ブロック毎の順位決定戦とするが、参加状況に応じて変則リーグ戦またはトーナメント戦とする場合がある。
  - (2) リーグ戦は、勝ち3点、引分け1点、負け0点により、勝ち点の多い順に順位を決定する。なお、勝ち点在同一の場合は以下の項目に従い順位を決定する。
    - I 全試合の得失点差(総得点－総失点)
    - II 全試合の総得点
    - III 当該チーム同士の対戦成績(勝敗)
    - IV コイントス
  - (3) ノックアウト方式により同点となった場合には、3名によるPK戦により決定する。3名で決着しない場合は、少ない人数のチームに合わせた上、サドンデス方式とする。
  - (4) 試合時間は各部門とも30分(15分ハーフ、休憩は原則として5分間)とする。
  - (5) 参加状況によっては、大会方式や試合時間の変更及び部門を統合する場合がある。
- 12 懲 罰
- (1) 本大会は、(公財)日本サッカー協会が定める懲罰規程に基づき、本大会に係る懲罰問題を処理するため、大会規律委員会を設置する。
  - (2) 大会期間中に警告を2回受けた選手は、次の1試合に出場できない。
  - (3) 本大会において退場を命じられた選手は、自動的に次の1試合に出場できない。それ以降の処置については大会規律委員会において決定する。
  - (4) 本大会終了時点で未消化となる出場停止処分は、当該チームが出場する直近の公式試合にて消化する。ただし、警告の累積によるものを除く。
  - (5) 棄権試合、不正等が発見・確認された場合は0対3とし、その後の処置については、大会規律委員会で決定する。また、本開催要項に記載事項のない懲罰に関する事項も、大会規律委員会で決定する。
- 13 参加申込
- (1) 参加申込書の登録選手数は25名までとする。登録選手以外の出場は認めない。
  - (2) 申込締切日 2023年4月17日(月)17時必着
  - (3) 大会参加料 22,000円(税込)・・・下記③の指定口座まで納入。  
※但し、70部門については、11,000円(税込)とする。
  - (4) 審判不帯同料 16,500円(税込)・・・下記③の指定口座まで納入する。ただし、この大会はシニア連盟主催の自主運営のため、出来る限り審判員を帯同させること。
  - (5) 参加するチームは所定の申込用紙により、必ず所属する地区サッカー協会へ、Eメールにて送付すること。
  - (6) 申込を受けた地区サッカー協会は期日までに①②まで申込手続きを行うこと。  
①(公財)北海道サッカー協会

〒062-0912 札幌市豊平区水車町 5 丁目 5-41  
北海道フットボールセンター  
TEL:011-825-1100 FAX:011-825-1101

●参加申込書

●プライバシーポリシー同意書

②北海道シニアサッカー連盟 事務局長 伊東美智子

Eメール: smrs-ito@taupe.plala.or.jp

TEL: 090-3778-4706 FAX: 011-778-9761

●参加申込書

③大会参加料・審判不帯同料振込先

北洋銀行 本店営業部 (普)5278500

口座名 北海道シニアサッカー連盟 大会申込口

- |   |  |
|---|--|
| 14 組 合 せ  | (1) (公財)北海道サッカー協会において厳正なる抽選を行う。<br>(2) 組合せ結果は(公財)北海道サッカー協会 HP「大会情報→シニア」で確認する事。 <a href="http://www.hfa-dream.or.jp/">http://www.hfa-dream.or.jp/</a><br>(3) 同じ地区より 2 チーム以上出場しているチームはブロック分けとする。   |
| 15 帯同審判員  | (1) 参加チームはJFAサッカー公認審判員(4 級以上)3 名以上の帯同を義務付ける。審判員の氏名、資格、連絡先等を参加申込書に記入すること。大会当日は審判証を提示する事。但し 70 チームは除く。<br>(2) 選手・役員が審判員を兼務する場合は、審判業務を最優先とすること。<br>(3) 審判不帯同は原則認めないが、やむを得ない理由により北海道シニアサッカー連盟が審判不帯同を認めた場合に限り、不帯同料 16,500 円を 13(6)③に納入すること。   |
| 16 選 手 登 録<br>変 更   | (1) 選手の登録変更は、2023 年 4 月 24 日(月)17 時まで、所定の変更届により、地区協会を通して E メールにて 13(6)①②に届け出ること。<br>(2) (公財)北海道サッカー協会への追加登録は、2023 年 4 月 24 日(月)17 時まで、に当協会に登録を完了した選手とする。   |
| 17 ユニフォーム<br>及び選手の<br>用 具<br>(JFA 推奨の<br>運用緩和を<br>全体的に適<br>用する場合<br>を基本として<br>設 定 ) | (1) (公財)日本サッカー協会「ユニフォーム規程」を遵守し(「ユニフォーム規程の運用緩和」を適用)、所属地区協会を通じて、(公財)日本サッカー協会の承認を得たものに限る。<br>(2) フィールドプレーヤー及びゴールキーパーは、本競技会に登録した正・副 2 組のユニフォーム(シャツ、ショーツ及びソックス)を試合会場に持参し、いずれかを着用することを原則とする。ただし、本競技会主催者が認める場合はこの限りではない。<br>(3) ユニフォームのデザイン、ロゴ等が異なっても、本競技会主催者が認める場合、主たる色が同系色であれば着用することができる(ビブス等も可)。<br>(4) ゴールキーパーのユニフォームについて、ショーツ、ソックスはフィールドプレーヤーと同系色でも良いものとする。<br>(5) 主審は、対戦するチームのユニフォームの色彩が類似しており判別しがたいと判断したときは、両チームの立ち会いのもとに、その試合において着用する判別しやすい組み合わせのユニフォームをビブス等も含めて決定する。<br>(6) ソックスにテープまたはその他の材質のものを貼り付ける、または外部に着用する場合、ソックスと同色でなくても良い。<br>(7) アンダーシャツの色は問わない。ただし原則としてチーム内で同色のものを着用する。<br>(8) アンダーショーツおよびタイツの色は問わない。ただし原則としてチーム内で同色のものを着用する。 |
| 18 監 督 会 議  | コロナ感染対策のため実施しない。連絡事項やユニフォーム計画等は事前にメール配信を行う。  |
| 19 開 会 式  | コロナ感染対策のため実施しない。   |

- 20 閉 会 式 期 日： 2023 年 5 月 5 日(金祝)各部門終了後に各会場で行なう。
- 21 選 手 証 (1) 登録選手は(公財)日本サッカー協会発行の選手証を、13(6)②宛てに下記期日までに E メールにて事前提出することを基本とする。選手証は、顔写真添付及び背番号を入力し、背番号順に並べた一覧表形式の PDF を基本とするが、一覧表形式での提出が難しい場合はこの限りではない。また、E メールによる事前提出が難しい場合は、当日持参も認める。  
※選手証とは WEB 登録システム「KICKOFF」から出力した選手証・登録選手一覧を印刷したもの、またはパソコンやスマートフォンの画面に表示したものを示す。選手証が確認できない場合は試合に出場できない。
- 22 負 傷 及 び 事 故 の 責 任 (2) 提出締切日 2023 年 4 月 27 日(木)17 時必着  
大会期間中の負傷及び事故の責任は当該チームが負うものとする。また、医師及び救急用品の準備は各チームの責任において行うこと。
- 23 そ の 他 (1) 本競技会は、J FA ガイドライン第 13 版 2023 年 3 月 1 日作成 及び新型コロナウイルスの影響下における競技会・試合運営の手引き (2023/3/1 版)に基づき、大会期間を通じて感染対策担当者を設置する。選手・チーム役員・審判員・大会運営等関係者・引率保護者・観客など会場にいる全ての者は、感染対策担当者の判断・指示等に従わなければならない。
- (2) 新型コロナウイルス感染症対策として実施していた健康チェックシートは回収しないが、大会参加者及び関係者は必ず各自で健康チェックシートに記録し自己管理すること。なお、必要に応じて感染対策担当者が健康チェックシートの提示を求める場合もある。
- (3) 大会参加者及び関係者は、自己責任のもと、以下の観点から自身の健康状態に問題なことを確認し、体調不良の場合は参加しないこと。また、必要に応じて事前に医師の診断を受け、試合出場に支障のないことを確認のうえ出場すること。  
・平熱を超える発熱  
・咳(せき)、喉の痛みなどの風邪症状  
・だるさ(倦怠感)、息苦しさ(呼吸困難)
- (4) 本大会要項に規定されていない事項が発生した場合には、北海道シニアサッカー連盟において協議の上決定する。
- (5) 大会参加にあたって、各チームはスポーツ傷害保険等の加入手続きを済ませること。
- (6) 荒天・震災・雷等、不測の事態が発生した場合は、当運営委員会において協議のうえ、対処する。中断・中止・延期することがある。
- (7) 眼鏡:プラスチックまたは、類似の素材でできた最近のスポーツメガネ以外は認めない。さらにフレームレス及び脱落する可能性があるると審判が判断した眼鏡は認めない。